

# 共同礼拝

2024年6月16日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 本多友子

前 奏

招 詞 詩 編 100編1～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 52章1～6節 (旧1148)

マタイによる福音書 22章15～22節  
(新43)

祈 禱

使徒信条

役員(長老)任職式

讃 美 歌 11

説 教 「神のものは神に」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 86

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 6月の祈り

教会が教会の頭であるキリストのもとに一つにまとめられるように。

キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、信じて、約束された聖霊で証印を押されたことを表すことができるように。

礼拝がまことに主をあがめるものとなるように。

信仰の継承がなされ、教会学校、幼稚園等教会に集う子どもたちに信仰の導きと祝福があるように。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

### 今日の祈り

礼拝が聖霊に導かれ、その力を受け、大胆に御言葉が語られるように。教会が一つになり、主を頭として仰ぎ、頭を挙げて生きることができるように。

高齢の兄弟姉妹、体調を崩している兄弟姉妹が守られ、力付けられるように。

音声配信で礼拝を守る人々を覚えて。

紛争の地に平和がもたらされるように。

### 「神のものは神に」高橋和人

マタイによる福音書22章15～22節

主イエスの十字架への歩みをはっきりするに従って、敵対者が増えていった。ファリサイ派はヘロデ党に接近する。ファリサイ派は潔癖な律法主義者であるのに対し、ヘロデ党は現世的世俗的であった。どちらにとっても、主イエスは脅威であった。

ファリサイ派は主イエスを陥れるためにヘロデ党を利用する。紛争の火種になっていたのは、ローマの人頭税であった。ローマ帝国に対し一人当たり1デナリをデナリオン銀貨で支払うものであった。1デナリは一日分の賃金にあたる。デナリオン銀貨には皇帝の肖像が彫られ、その名前に「神の子」、「大

祭司」と称号に加えられていた。ユダヤの民衆にとっては、自分たちが政治的に支配されていることと、信仰的にも自分たちの忌み嫌うことを強要された屈辱的な象徴となった。

ヘロデ党は現世的な政治的なグループであった。ローマ支配を受け入れながら保身を図っていた。現実の生活では受け入れるほかにない不条理なことが民衆には重く影を落としていた。

彼らは言葉の罫を仕掛ける。まず、下心のある敬意を述べる。あなたは真実な方、真理により神の道を教え、分け隔てされない。そういいながら偽りの仮面をかぶる偽善者となっている。

「皇帝に税を納めるのは律法に適っているか、いないか」これは彼らの間の議論でもあった。どう答えても、それをもって糾弾する罫であった。しかしそれは人々に寄り添うものではなかった。

主イエスは偽善を見抜かれる。偽善は仮面をかぶっての芝居のこと。人にはこういううわべと本心の二重性が染みついている。しかし、多くの人々は現実の中で信仰に生きねばならない。

敵対者たちは税に納めるお金を携帯していた。彼らも、被支配者の現実を受け入れている。主は銀貨の肖像と銘を聞き、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と言われた。これは政治と信仰を分けることでもなく、どちらかを選ぶのでもない。重点は「神のものを神に」の方にある。

主イエスはローマ皇帝の名前で十字架に付けられ殺された。しかし、それは「神のものを神に」をもたらした。それは、罪人が十字架の救いによって神のものとされ、神のものとされたものには神に自分を捧げて生きる道が与えられた。

信仰者はこの世界の現実の中で神のものとして生きる生き方が与えられている。